

石垣島での客船ウォッキング

2025.1.8 池田良穂

1月7日那覇を出た「MSC ベリッシマ」は、翌朝には石垣島に到着しました。石垣島の人工島の先端にクルーズ客船岸壁が整備されて、22万総トン級まで受け入れることが可能となっています。現在、岸壁の延長によって2隻同時停泊ができる能力への拡大と、陸上でCIQができるためのターミナルビルの建設が始まっています。

このクルーズ客船岸壁は市街地から遠いのが欠点で、徒歩だと市街地まで小一時間はかかりますので、岸壁から市街地までの循環バスが運行されていましたが、7時に着岸したものの12時を回ってもバスの乗り場には長蛇の列ができていました。またタクシー乗り場にも長い列ができていましたが、こちらはなんとか耐えられる時間でタクシーに乗ることができました。タクシーが次々と来るので15分ほどで乗車できました。離島航路の客船ターミナルまでタクシ一代金は1000円でした。



石垣港の人工島の先端に建設された岸壁に停泊する「MSC ベリッシマ」の姿

石垣島は、サンゴ礁の中に浮かぶ島々への観光拠点となっており、たくさんの小型高速旅客船、カーフェリーが就航しています。運航するのは八重山観光フェリー、安永観光、石垣島ドリーム観光の3社で、年間80万人にも上る旅客を島々に運んでいます。前2社は定期便も運航していますが、3社目のドリーム観光は定期便の運航からは撤退して、観光会社のチャーター便のみに特化しています。これらの小型客船群の撮影には、港口に停泊するクルーズ客船の船上は最適でした。

高速旅客船は19総トン型と呼ばれる小型船が多かったのですが、最近は、観光客の増加に伴って大型船が増えてきました。いずれも30～40ノットの高速船で、波が高くならないサンゴ礁の中に設けられた航路を全力疾走しています。各運航会社は、旅客船の運航と共に、各島への貨物輸送を行うための貨客船または貨物船の運航も義務付けられています。



石垣港の入口で交差した高速旅客船「いりかじ」と「やいま」。



「あやぱに」と「ちゅらさん 2」

19総トン型高速旅客船

船尾にある、一段高い区画は露天甲板になっていて、総トン数には入りませんが椅子席が設けられています。19総トン型までは、小型船舶検査機構の登録船となり、建造も検査も簡易になっていますので、かつてはほとんどが19総トン型でした。しかし、旅客定員が80名程度に限られるため、最近は、20総トンを超える大型の高速旅客船が多くなってきています。



「第88あんえい号」



「サザンキング」



「サザンパラダイス」

大型の高速旅客船



「ぱいじま 2」



「ぱいじま」



「スーパードリーム」



「ちゅらさん 2」

周辺離島航路の貨客船



高速貨客船「ぱいかじ」



高速貨客船「ゆいまる」



波照間島航路のカーフェリー「フェリーはてるま 2」(左)と、高速旅客船「いりかじ」(右)。

電動遊覧船



「Vibes One」 バッテリーに貯めた電気で走る実験船でしたが、港の奥の船溜まりに係船されていました。

貨物船



「農協やえやま」 各島で採れた農産物を石垣島に輸送する貨物船です。

巡視船艇

石垣島は台湾にも近く、中国との領土関係でもめている尖閣諸島にも近い最前線で、多数の巡視船が配備されています。



巡視船「いぜな」



巡視船「たらま」



巡視艇「あだん」